

**事業の抜本的な改善方策の  
実現に向けた実行計画  
検証報告書  
室蘭線**

---

**2025年9月**

**室蘭線アクションプラン実行委員会**

# はじめに

---

- 本報告書は、2024年8月に策定した「室蘭線（苫小牧～岩見沢間）事業の抜本的な改善方策の実現に向けた実行計画」（以下「実行計画」という。）の2024年度の実行状況について、室蘭線アクションプラン実行委員会が検証を行い、その結果を取りまとめたものである。
- 計画1年目である2024年度は、実行計画にもとづき、地域の関係者とJRが一体となって、生活利用、観光利用という室蘭線の特性をふまえた利用促進、または、コスト削減に取り組んだ。
- 本検証を踏まえ、2026年度末までに室蘭線の事業の抜本的な改善方策を確実にとりまとめるため、引き続きJRと地域の関係者が一体となり、徹底した利用促進・コスト削減に取り組むとともに、あるべき交通体系に関する徹底的な議論を行う。

# 1 取組方針、線区特性、目標

## (1)取組方針

- JR北海道は、徹底した経営努力を前提として、鉄道を持続的に維持する仕組みの構築を行うため、地域の関係者のご協力を得ながら、地域の関係者と一体となり、徹底的な利用促進、コスト削減などの取組を進める。
- 監督命令に基づき、2026年度末までに事業の抜本的な改善方策を確実にとりまとめる。

## (2)線区特性

- 「苫小牧および岩見沢への買物・通院等を中心とした生活利用」と「札幌圏をメインとした道内客による観光利用」を線区特性とする。

## (3)具体的取組に関する基本方針

- 苫小牧及び岩見沢への買い物・通院等を中心とした生活利用、および札幌圏を中心とした道内客の観光利用という線区特性を最大限発揮する。
- 利用促進、コスト削減の取組を推進し、線区の収支改善を図る。
- 持続的な鉄道網の確立に向け、二次交通も含めたあるべき交通体系について、徹底的にデータとファクトに基づく議論を重ねる。

## (4)基本指標

- アクションプランの計画期間（2019～2023年度）で目標を達成できなかったことから、引き続き2017年度実績を目標とする。

|           |                  |           |
|-----------|------------------|-----------|
| ①収支状況（目標） | 2026年度（実行計画終了時期） | △1,233百万円 |
| ②輸送密度（目標） | 2026年度（実行計画終了時期） | 439人/日    |
- 基本指標は、これまでのアクションプランと同様に、その達成を引き続き目指す目標とする。

## (5)線区特性に応じた目標

- 基本指標となる収支・輸送密度に加え、生活利用と観光利用という線区特性に応じた目標を設定する。
- 線区特性に応じた目標（収支改善目標）

|                  |         |
|------------------|---------|
| 2026年度（実行計画終了時期） | 607百万円  |
| ※目標達成時の線区収支      | △626百万円 |
- 線区特性に応じた目標は、線区特性に応じた更なる収支改善の取組に努めていく方向性を示すものとする。

## 2 数値目標の検証①

|           | 2024年度<br>実績<br>[A] | 基本指標<br>[2017年度実績]<br>(2026年度目標)<br>[B] | 差異<br>[C=A-B] | 線区特性に<br>応じた目標<br>[収支改善目標]<br>(2026年度目標)<br>[D] | 目標達成時<br>の線区収支<br>(2026年度目標)<br>[E=B+D] | 差異<br>[F=A-E] |
|-----------|---------------------|-----------------------------------------|---------------|-------------------------------------------------|-----------------------------------------|---------------|
| 線区収支（百万円） | △ 1,071             | △ 1,233                                 | 162           | 607                                             | △ 626                                   | △ 445         |
| 輸送密度（人/日） | 327                 | 439                                     | △ 112         |                                                 |                                         |               |

### 線区収支

- ・ 営業収益については各種利用促進に取り組んでいるものの、新型コロナの影響による大幅減収からの回復途上にある一方、各種コスト削減の取組み等により営業費用が減少していることから、2024年度の線区収支は基本指標を162百万円上回った。
- ・ 基本指標達成に向けた、2024年度の収支改善の主な取組みは以下のとおり。

### <収支改善に向けた2024年度の主な取組み>

#### ①-1 生活・観光利用収入増加に向けた地域の取組み

- ・ 鉄道利用促進のための旅行補助の実施
- ・ 高校通学定期券購入費助成の実施
- ・ 沿線住民への鉄道利用促進情報の発信
- ・ 地域イベント等を活用した利用促進の実施、等

#### ①-2 生活・観光利用収入増加に向けたＪＲの取組み

- ・ 沿線3駅でJRヘルシーウォーキングイベントワークを開催
- ・ 沿線2駅でJRヘルシーウォーキングいつでもウォークコースを設定し、告知ポスターを作成し札幌圏及び沿線で掲示
- ・ 地域イベントポスターを札幌圏主要駅や沿線駅で掲示

上記の取組みにより、生活・観光利用収入（定期外収入）は+ 5 百万円（2023年度比）

#### ②-1 地域と一体となったコスト削減の取組み

- ・ 駅舎の整備・維持・管理業務委託

#### ②-2 ＪＲによるコスト削減の取組み

- ・ 被服配給制度の見直し

上記の取組み等により、1.4百万円のコスト削減

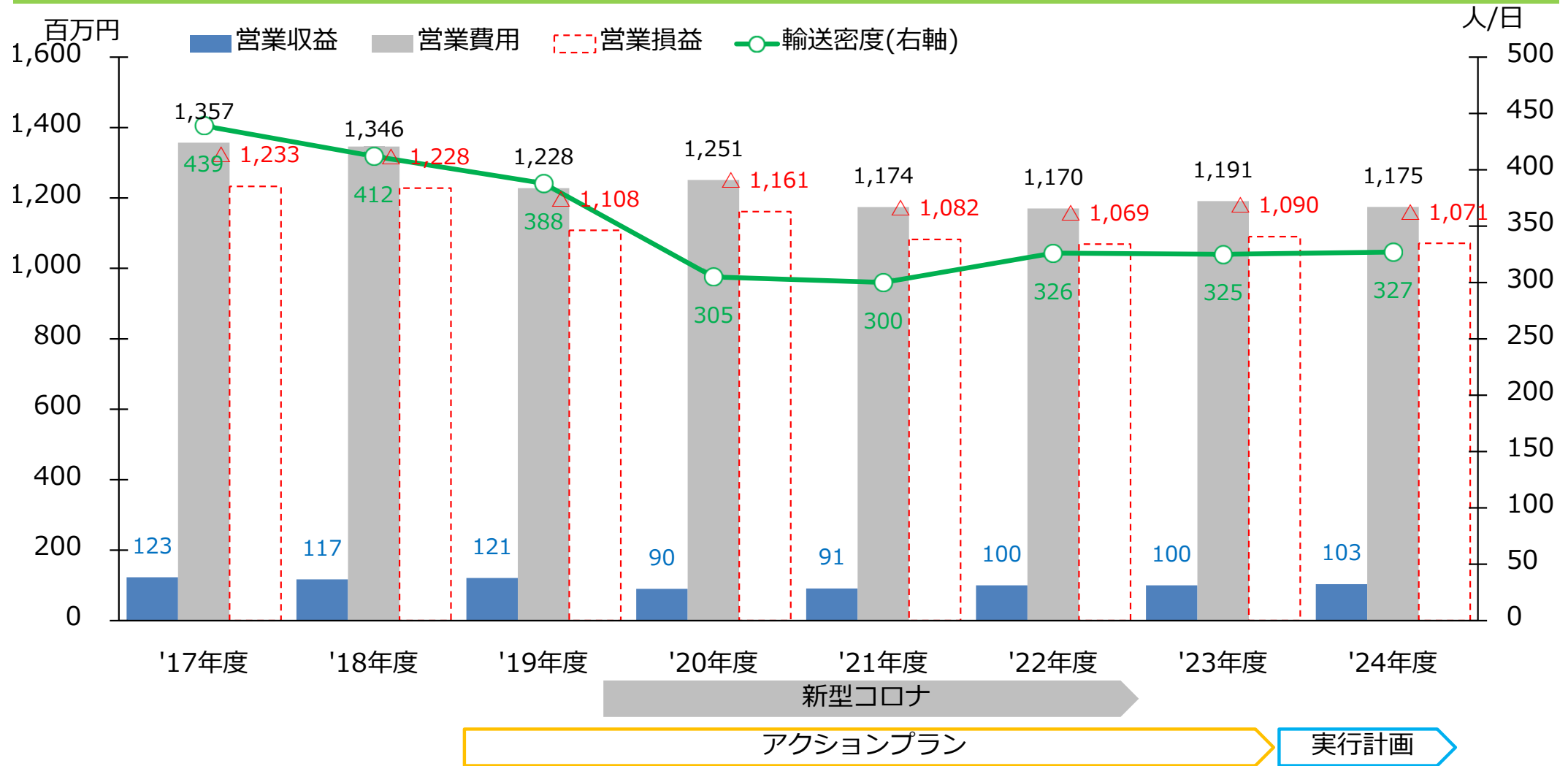
#### ③ 具体的取組への地域によるご負担

- ・ 利用促進、収支改善に向け、9 百万円の費用をご負担いただき、通学定期補助や広告宣伝等を実施

### 輸送密度

- ・ 地域の関係者とＪＲが一体となって利用促進に取り組んでいるものの、2024年度は基本指標を112人/日下回った。

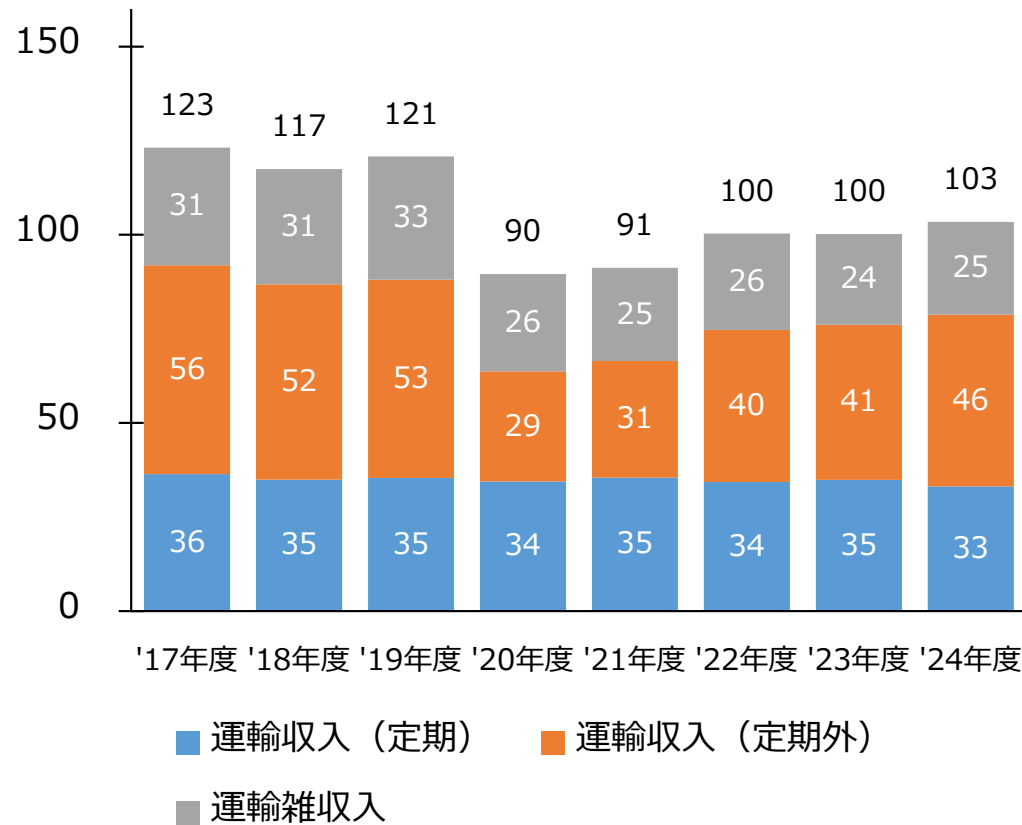
## 2 数値目標の検証② 線区収支・輸送密度の推移



- 営業収益は、2019年度に運賃改定を実施したが、2020年度に新型コロナの影響等を受け大きく減少。その後、回復してきているものの2024年度は2017年度の水準までは回復していない。営業費用は、施設維持に係る費用の減少により各年度とも2017年度を下回る水準で推移している。営業損益（線区収支）は各年度とも2017年度を上回る水準で推移している。
- 輸送密度は、2020年度に新型コロナの影響等を受け低下し、2021年度以降回復傾向にあるが2024年度は2017年度の水準まで戻りきっていない。

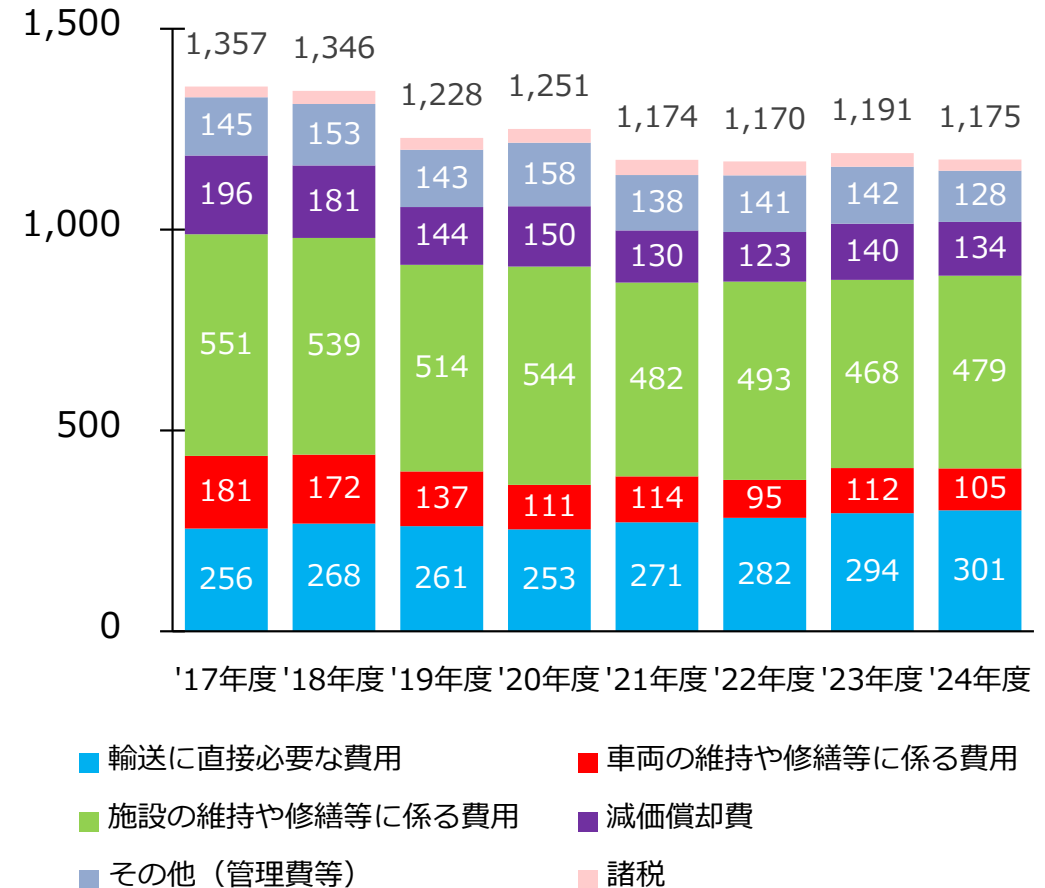
## 2 数値目標の検証③ 営業収益・営業費用の内訳

①営業収益（単位：百万円）



運輸収入（定期）は、少子化等の影響で微減傾向。運輸収入（定期外）は2019年度に運賃改定を実施し増加後、2020年度に新型コロナの影響等を受け、大きく減少。その後、新型コロナからの回復により増加に転じたが、2024年度は2017年度実績を下回っており、営業収益全体でも、2017年度水準まで回復はしていない。

②営業費用（単位：百万円）



原油価格の上昇等により輸送に直接必要な費用が増加傾向であるが、車両の維持や修繕等に係る費用、施設維持修繕等に係る費用、減価償却費が減少傾向にあり、営業費用全体では各年度とも2017年度を下回る水準で推移している。

### 3 利用促進・コスト削減の取組みの検証

#### (1)利用促進・増収施策

| 取組                        | 目標          | 実績     | 差異    |
|---------------------------|-------------|--------|-------|
| グループ旅行補助事業実施              | 助成人数 100名   | 161名   | 61名   |
| 地域イベント等を活用した室蘭線の利用促進      | 利用人数 1,400名 | 1,111名 | △289名 |
| JRヘルシーウォーキングを活用した札幌圏からの誘客 | 参加人数 915名   | 667名   | △248名 |

- ・安平町が実施したグループ旅行補助については、要綱を変更し町外から室蘭線を利用して安平町を訪問する旅行に対しても補助を拡大したことにより、目標を大きく上回る実績となった。
- ・地域イベント等を活用した室蘭線利用促進の目標数を対前年実績×150%に設定して取組んだが、実績は、1,111名となり対前年119%となった。
- ・JRヘルシーウォーキングを活用した誘客の目標を対前年実績×150%に設定して取組んだが、実績は、667名となり対前年109%となった。

#### (2)コスト削減

| 取組                                 | コスト削減額 |
|------------------------------------|--------|
| ご利用の少ない駅の施設管理                      | 0.4百万円 |
| JR室蘭線活性化連絡協議会において、沿線市町で取組むコスト削減を検討 | 一百万円   |
| ご利用実態に応じたダイヤ設定・車両数を検討              | 一百万円   |

- ・新規コスト削減の検討を行ったが、実施には至っていない。

## 4 具体的取組への地域によるご負担

(単位：千円)

| 自治体名                     | 実施時期   | 具体的取組み                                     | ご負担額  |
|--------------------------|--------|--------------------------------------------|-------|
| 安平町                      | 4～3月   | 通学定期券購入に対する助成                              | 5,106 |
| 安平町                      | 4～3月   | 安平町鉄道利用助成金                                 | 638   |
| 安平町                      | 4～3月   | 駅舎の整備・維持・管理業務委託                            | 396   |
| 安平町                      | 4～3月   | 室蘭線でも利用可能なプレミアム付域内共通回数乗車券の発行               | 2,022 |
| 安平町                      | 4～3月   | 安平町職員ノーマイカー運動による室蘭線利用                      | 120   |
| 安平町                      | 7月     | うまかまつり室蘭線利用来場者に1000円分の会場で使用できるクーポン配布       | 364   |
| 由仁町、安平町<br>岩見沢市          | 8～10月  | 室蘭線沿線市町の保育園児・小学生体験乗車                       | 14    |
| 安平町                      | 8～9月   | ロイヤルエクスプレス歓迎                               | 49    |
| 安平町                      | 9月     | 北海学園大学藤田ゼミ生 室蘭線フィールドワーク支援                  | 4     |
| JR室蘭線活性化<br>連絡協議会        | 9月     | 北海道鉄道フェスティバルin北海道出展。<br>出展費用、アンケート・ノベルティ配布 | 99    |
| 安平町<br>JR室蘭線活性化<br>連絡協議会 | 9～10月  | ひとめぐり号おもてなし                                | 173   |
| 安平町                      | 11～12月 | 町広報誌に町内在住のライター作成の鉄道利用促進記事を掲載               | 79    |
| 苫小牧市                     | 2月     | 「とまこまいスケートまつり」にあわせ利用促進のポスター作成              | 25    |

# 5 2024年度の主な取組

## 鉄道利用促進のための旅行補助等の実施

安平町では鉄道利用促進のため鉄道を利用した町内団体の他に、町外から町内を訪問するグループ旅行にも助成の枠を広げ、この制度を利用した団体利用が14件161名あった。また同町では通学定期券(3ヶ月定期)の補助も行っており年間延べ170名の利用があった。



## 地域のイベントを活用した利用促進

「くりやま老舗まつり」、「とまこまいスケートまつり」など地域イベント開催にあわせてポスターを作成し沿線、札幌圏の駅へ掲示を行った他、「あびら夏! うまかまつり」では、室蘭線利用来場者に会場で使用できるクーポンを配布し室蘭線利用促進を図った。



## 沿線保育園児・小学生の体験乗車の実施

マイレール意識向上のため沿線の保育園児、小学生へ出前授業と体験乗車を実施した。実施箇所は由仁地区学童保育(8/8)、追分こども園(9/6)、栗山小学校(9/26)、三川保育園(9/26)、志文保育園(10/23)の5箇所合計132名の園児、児童の参加があった。



## 札幌圏を中心とした室蘭線PR・モーションの実施

室蘭線沿線の魅力発信と誘客を図るため、沿線5市町が協力して次の取組みを実施した。札幌で開催された「鉄道フェスティバルin北海道」への出展。観光列車運転時に車内や追分駅・岩見沢駅ホーム等で、沿線情報発信等を実施。また、鉄道フェスティバルでは、利用意向調査を実施した。



## 6 2024年度の検証

- 2024年度は、J Rと地域の関係者が一体となり、実行計画にもとづき徹底した利用促進・コスト削減の検討に取り組んだ。
- 具体的には、利用促進の取組みとして、室蘭線を団体で利用する際の助成制度創設、沿線住民への情報発信、地域イベント等を活用した沿線住民への利用喚起、J Rヘルシーウォーキングを活用した札幌圏からの誘客を実施した。また、コスト削減では自治体によるご利用の少ない駅での乗車券の委託販売等の取組みを継続したほか、沿線市町で実施可能なコスト削減の検討や利用実態にあったダイヤや車両数の検討を実施した。
- 今後のさらなる利用促進施策を検討するため、岩見沢開催時のJRヘルシーウォーキングや札幌で開催した鉄道フェスティバルにおいて、室蘭線への誘客プロモーションや室蘭線の認知度、利用状況、利用者属性や利用目的等のアンケート調査を実施した。
- これらの各種取組みにより、線区収支は基本指標に対して162百万円上回ったが、輸送密度は基本指標を112人/日下回った。  
生活・観光利用収入増加に向けた各種取組みを実施しているものの、2017年度実績と比較すると営業収益は16%程度下回っており、また輸送密度も25%程度下回っていることから、生活・観光利用増加に向けた取組みをより一層、進める必要がある。また、さらなる収支改善にむけ、安全確保を最優先としつつ、徹底したコスト削減にも取り組む必要がある。
- 今後は、2026年度末までに室蘭線の抜本的な改善方策を確実にとりまとめられるよう、2024年度の結果を踏まえ、P D C Aサイクルにより必要な見直しを行いつつ、徹底した利用促進・コスト削減の取組みを進めていくとともに、二次交通も含めたあるべき交通体系に関する徹底的な議論を進めていく。